

米田氏「待ち行列網による情報ネットワークと生産工程の解析」：待ち行列網を使った生産工程の解析，また逆問題と呼ばれる最適化問題についても述べられた。待ち行列網は，情報の流れと物の流れを性能面から統一的に表現する言語であるとした上で，実際の解析例としてIC生産などの実例を示しながら述べられた。

入澤氏他「エキスパート・システムを用いた生産スケジュールリング」：多工程ジョブショップスケジュールリング・エキスパート・システム構築の実際を述べられた。入澤氏はエキスパート・システムのアプローチを通じて，

スケジュールリングの目的や評価尺度の整理・統合化が行なえると述べ，エキスパート・システムの有効性を強調された。

CIM管理技術というテーマで行なわれたゆえであろうか，非常に多くの参加者であっただけでなく，会場には実務に携わる方々の出席が目立ったように思えた。オーガナイザーの黒田氏の言葉にもあったように，まさに産学一体となった研究活動が行なわれようとしている分野であることを痛感した。

## “1990年度秋季研究発表会アンケート”集計結果

研究普及理事 小島 政和

平成2年9月23日，24日に早稲田大学で開催された日本OR学会秋季研究発表会に関してアンケート調査を行いました。ご協力ありがとうございました。その集計結果を報告いたします。

参加者数合計=362名

正会員：268，学生会員：33

賛助会員：39，非会員：22

研究発表件数=126件

招待発表：6，一般発表：88

特設セッション：28，ペーパーフェア：4

アンケート発送者数=332名

正会員：267，学生会員：31

賛助会員：24，非会員：10

回答者数=165名

企業関係者：52，大学関係者：102

学生：5，その他：6

回答者年齢層

20代：34，30代：50，40代：46

50代：14，60代：17，70代：4

興味の対象（重複を許す）

理論：117，事例：104，理論および事例：62

主たる参加動機（2つまで）

テーマ“未来の生産システム”：32

特別公演：38

特設セッションで発表：21，同参加：39

一般セッションで発表：49，同参加：53

都内で交通至便：20，休日：12

休・祭日で出張しやすかったから：9

その他：27

「研究発表会・学会に対する感想，要望，不満，希望するテーマ等」に寄せられたご意見は多種多様で，残念ながら，そのすべてをここにご紹介するわけにはいきません。比較のご要望の多かったご意見は以下の3つです。

(1) 研究発表会の開催は平日に……

私個人としても賛成ですが，“会場の都合で平日開催が非常に難しい”ということをご理解いただきたいと思っています。費用の関係で今回のように大学を利用させていただくことが多いのですが，その場合にはどうしても授業のない休日になってしまいます。

(2) 特設セッションは今後も続けて……

毎回行なうのは，オーガナイザーの候補者，テーマ等の関係で無理があるかもしれませんが，1～2年に1回位の割合ならば十分可能でしょう。

(3) 事例研究を含めて企業サイドの発表を多く……

特設セッションの1つのねらいは企業で行なわれているORを引き出すことにありました。少しは企業サイドの発表が増えたのではないかと考えています。今後も，企業の方々により多く発表に参加なさることを望んでいます。

最後になりましたが，このアンケートの作成および集計に際してはOR学会の関口事務局長，高橋さん，東京工業大学事務官の日暮さんにお手伝いいただきました。お礼申し上げます。